



西伊豆のオニカサゴ仕掛け例

●Tackle Guide
2~3本バリの片テンピン仕掛けが主流だが、集魚アイテムには各自のこだわりと工夫が見られる。夜光玉やパイプ、水中ライトなどを付けると効果的なが多いが、条件次第では逆効果となることもあるので注意しよう。



▲ポイントは石花海の130~200メートルダチ

ゲストが活発にヒット

それにしても、鈴木健司船長のテンポのよさには驚く。

水深は132メートル。夜明けとともに風はいくぶん収まったが波はまだある。空は曇天で、潮は濁りがきついようだ。船長によれば、オニカサゴ釣りの好条件はピーカンと澄み潮とのことなので、コンデ

▼ダイワの田淵さんがオニカサゴとユメカサゴを一荷でキャッチ



オニカサゴの釣り場は比較的フラットな海底、魚探に魚の反応が映るわけでもないため、たいしては大流しで広く探る作戦を取る船長が多い。

しかし健司船長は仕掛けが着底し、2分たつたれにアタリがなければすぐに仕掛けを回収させ次の流しへと移行する。

おそらくは根の中なのか、際なのか目によって変わるであろう状況を少しづつ条件を変えながら絞り込んでいき、ヒットパターンを見つけ出す努力をしているのだろう。

たとえアタリが連発しても、同じラインは流さないのがポリシーとか。このほか、27センチ以下はリリースという独自のルールを設けているのも珍しい。

船は徐々に深い場所を探るようになり、200メートルダチも流してみたがどのポイントでもオニカサゴは釣れたものの、とくに深場ほどサイズがいいというわけではなかった。潮の濁りが影響したのか普段よりゲストが多く、カンコ、ユメカサゴのほか、キダイ、アマダイ、キントキ、アラ、

●船宿information
西伊豆土肥恋人岬
とび島丸
☎0558-99-0159
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=オニカサゴ乗合一人
1万6000円(氷付き)
▶備考=予約乗合、3時半集合。ほかマダイ、ヤリイカへも出船

鈴木 健司船長

サメ、大型のタコなどが交じった。

付けエサはサバの切り身、アナゴ、サケ皮、サンマの切り身、イイダコ、イカなどなど、様ざまなものを試していたが、この日はエサ持ちのいいエサが有効という結果に落ち着いた。

午後1時に沖揚がり。釣果は28~47センチのオニカサゴが一人2~6尾だった。12月10日は45センチを頭にトップ12尾というから、やはり当日は条件が悪かったのだろう。

ともあれ、本格化するのには年明け以降となるのがいつものパターンなので、ナギのいい日に恵まれれば、きっと満足できる釣果が得られるに違いない。



▲石花海のオニカサゴは40センチオーバーの良型が目立つ

▼オニカサゴとカンコ(ウツリカサゴ)の一荷



イシヨンはかなり悪い。頼みの綱は釣り場のポテンシャルだ。成長が極めて遅いオニカサゴは、どの釣り場も場荒れが目立ち、数、型ともに以前のように釣れなくなっている。

石花海も例外ではないが、「それでもまだここはパラダイスですよ」と田淵さん。全国を釣り歩く人の言葉だけに信ぴょう性がある。

開始早々、左舷ミヨシにアタリ。上がってきたのはユメカサゴ。続いてお隣のミヨシ2番にいいアタリがあり、今度は40センチ級のオニカサゴが取り込まれる。

そしてお隣、またお隣と次つぎに竿が曲がるが、いずれも30センチ級のキダイだった。

2流し目は水深145メートルと少し深いポイントを探る。左舷でキダイ、小ぶりのオニカサゴと続いた後、ようやく右舷でも胴の間の方にアタリ。本命らしい重おもしろい引きを見せつつ海面に浮上したのはオレンジでは

12月17日、オニカサゴ狙いで西伊豆土肥恋人岬のとび島丸へと釣行した。

銭洲遠征とマダイがこの宿の看板だが、遠征が禁漁となる真冬はオニカサゴやヤリイカ狙いで出船している。

集合は3時40分。この日は乗合ではなく、三菱地所釣りクラブの仕立船に便乗させていただいた。

乗船者の中には、このクラブと古くから付き合いのあるダイワの田淵雅生さんの姿もある。

4時10分に出船。ポイントの石花海までは、ベッドに潜

り込んでゆっくりと睡眠を取る。しかし、向かい風となる西寄りの風が強く、途中かなりの上下動があった。

シケ気味の海況が影響し、ポイントに到着したのは7時10分。急いで準備を終え7時25分に釣り開始となった。

オニカサゴの楽園

●西伊豆土肥恋人岬発↓石花海

フィッシングライター 訓覇啓雄 Hiroo Kuribe

数、型ともに期待十分！

石花海のオニカサゴ好況

知得! Tips and Tricks 裏本命「アラ」

「オニ」の楽園と呼ばれる石花海の、もう一つのターゲットがアラ。この日も小型ながら1尾上がったが、田淵さんの話では昨年2月に4.5キロ。2020年には6~8キロ級が船中7~8尾釣れた日もあるとか。狙って釣れるわけではないが、気配を感じたら仕掛けを一回り太くし、エサも大きめのものに替えれば確率は高まる。なお、水深は190メートル以深でのヒットが大半だという。



▲アラに備えてワンランク太めの仕掛けも準備しよう